

ウェルおおさか

vol.136 2022.2 隔月発行(偶数月1日)

特集

病気の子どもへの教育・支援活動 ～学びたい・遊びたいを支える～

- 図書・資料閲覧室からのお知らせ
- 講座案内

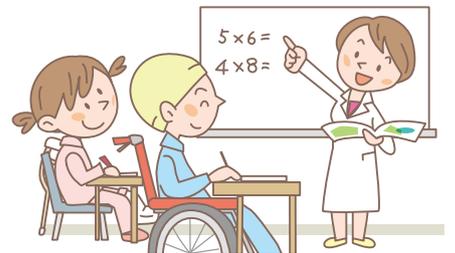


病気の子どもへの教育・支援活動

～学びたい・遊びたいを支える～

子どもの権利条約では、すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されています。その権利は、たとえ小児がんなど命を脅かす病気を患ったとしても保障されるべきですが、現状では、十分とは言えません。

今回は、小児がん拠点病院として、入院している子どもに全人的サポートを行う大阪市立総合医療センターと一人ひとりに合った院内教育を提供する大阪府立光陽支援学校の取組みを通じて、病気の子どもたちが自分らしく学び、遊び、生きるために大切なことについて考えてみたいと思います。



を感じて、さらに、学んでいるという実感は、「未来に向かって成長している」現在の自分を確かめることにもつながっているのではないのでしょうか。

継続的な教育を受けている子は少ない

文部科学省『長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査の結果』によれば、小・中・高、中等教育学校（中高一貫）、特別支援学校で、病気やけがにより長期入院（30日以上）している児童生徒は、約6,300人とされています（平成25年度）。しかし、長期入院した児童生徒の約半数は、在籍校による学習指導が行われておらず、継続的な教育を受けている子どもは少ないといえます。指導が行われない理由として、治療に専念するため、病院からの指示、感染症リスク、指導教員・時間の確保が難しいことなどがあげられています。

意欲や自尊心の低下を引き起こす恐れがあります。また、入院前の学校生活とは異なり、病棟の生活では、子ども同士で関わることで育つ社会性を獲得する機会も少なくなってしまう。

入院しても「日常」は続いている

突然の病気や入院によって、不安が強くなるときに、その子どもの中に「日常が続いている」と感じられる環境があれば安心することができます。子どもたちにとって、学校で過ごす時間は、日常生活の中心を占めています。入院中も入院前と同じように、学校に通い、先生や仲間と一緒に学び、遊ぶことで、子どもは「病気になっても変わらない自分」

さまざまな形態で教育を提供

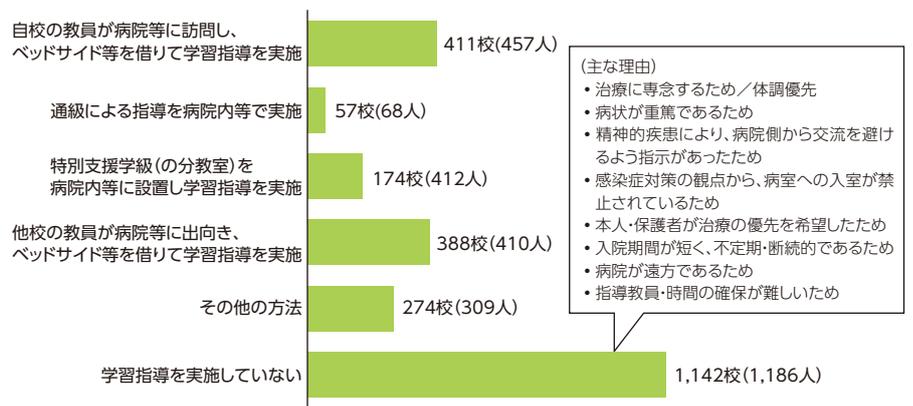
小児がんを含めて病気の子どもたちへの教育は、大阪府立光陽支援学校では特別支援教育の一環である「病弱教育」がその中心を担い、入院中の子どもたちに対しては、病院内の分教室で病弱教育が提供されています。病院の中での教育は、特別支援学校（本校・分教室）や通っていた学校の先生による訪問教育、近年では、ICTを活用した遠隔授業など、さまざまな形態で行われています。次ページからは、特別支援学校による病院内の分教室の様子や小児がん拠点病院での多職種連携による取組みについて紹介します。

長期療養を強いられる子どもの不安

小児がんとは、一般的に15歳未満にみられるがんの総称で、脳腫瘍、白血病、リンパ腫ほか多くの種類があります。子どもたちは、治療に伴う苦痛や外見の変化、家族や友達と離れる寂しさ、学習の遅れや復学・進学への不安などで、日常生活が入院によって分断されたような感覚が生じやすくなります。

特に学習面において空白の期間が生じれば、学力不振に陥りやすく、学習の

【病気やけがにより長期入院した児童生徒に対する学習指導（小・中学校の場合）】



※小・中学校における病気やけがにより長期入院した児童生徒数は延べ2,769人

文部科学省「長期入院児童生徒に対する教育支援に関する実態調査の結果」より

学びを止めず、スムーズな復学を

大阪府立光陽支援学校

首席病弱部 西井大介先生▶



一人ひとりの病状や能力に応じた学習

大阪市立総合医療センターの院内学級とは、病院内に設置された光陽支援学校病弱部門の分教室です。原則として原籍校から病院にある学校への転校が必要で、退院後は、もともと在籍していた学校へ復学します。原籍校への復学は入院治療における大きな目標のひとつとなります。

総合医療センターは小児がん拠点病院のひとつで、全国各地の子どもたちが入院しているため、教科書も学習の進み方も一人ひとり異なります。一方で、小児がんだけでなく、骨折、摂食障害など、治療の内容も違い、入院期間も、2〜3カ月を中心に長ければ半年〜1年と幅があります。したがって、一斉授業ではなく、ひとつの教室のなかで、一人ひとりに応じた個別授業で対応し、図工・美術、音楽、体育などは学年を超えて合同で行っています。

「原籍校で定期テストがあれば、テストを取り寄せてこちらで受験し、原籍校の結果と照らし合わせるなど、入院したことにより学力低下とならないよう務めています」と光陽支援学校病弱部の西井大介さん。

子ども同士の関わりで社会性を獲得

分教室には、さまざまな子どもたちがやって来ます。点滴を受けながら車椅子でくる子もいれば、骨折のためベッドのまま教室に入ってくる子もいます。「教室にいる子によって雰囲気も変わります。静かな子が多いと集中して学習していますし、にぎやかな子がいれば、すぐに仲良くなり、みんなでカードゲームをすることもありました」と西井さん。

児童精神科で治療する子の中には、

原籍校で不登校だった場合もあるので、過度な負担とならないよう「こられたらきーや」というぐらいの声かけを行っています。勉強したいけど登校するのがしんどい子には、放課後、教員が病室に行きベッドサイド学習を行っています。

多様な学びの場で視野を広げる

授業以外に、運動会、日曜参観、遠足、学習発表会、いろんな病院を結んでのweb交流会など、閉じこもりがちな子どもたちの意識を病院の外の世界にも向ける行事やイベントも用意しています。

運動会では、みんなで参加できるようスプーンリレーやボウリングなど種目や方法を変えて実施します。学習発表会では、同校のSDGsの実践を地域社会に発信する取り組み『光陽GoGoプロジェクト』の一環として調べ物学習の成果を発表しました。

「院内だからできないと決めつけるのではなく、医師や看護師と相談しながら、安全で無理のない形を工夫しています」。西井さんは、小児科担当医、看護師長、ソーシャルワーカーなどが参加する月1回のケースカンファレンスにチームの一員として参加し、それぞれの病状を理解した上で教育を提供しています。

また、コロナ禍で行動制限がかかるなかでも、ICT機器を用い、教室に居ながらにして沖縄美ら海水族館探検ツアーに出かけたり、さまざまな企業の出前授業を受けたりするなど教科書以外の学びも充実しています。

復学に伴う不安をやわらげるために

病気で長期欠席した後、原籍校への復帰に対する心配や不安は、非常に大きいといえます。しかし、病院と学校の

つながりがある場合は、心配や不安も少なくなります。

同校では、「退院後の学校生活への配慮が最も大切だと考えています。入院中から、ICT機器を使って、原籍校の運動会や音楽発表会などの情報を共有したり、退院前に原籍校の友達と会話する機会をつくったりして、復学のハードルを低くしています」。退院時には、原籍校の担任と西井さんは担当医を交えながら、病状や学習の引き継ぎをしています。退院した子どもから「『成績が全然落ちてないです』とか不登校だった子から『学校に通えているよ』と連絡があるととても嬉しい気持ちになります」と笑顔の西井さん。

一人ひとりの病状に対応した環境や教育方法で、治療しながら無理なく学習が進められる分教室。西井さんにはこんな願いがありました。

「保護者の方から『ここでの学習は、有料なんですか?』と尋ねられたことがあります。公教育なので無料です。分教室をはじめ、本校の取組みをもっと多くの人に知っていただき、病気になっても学びたいたくさんの子どもの学びの場となってほしいですね」

DATA

大阪府立光陽支援学校

創立59年。身体に障がいのある児童生徒を対象とした「肢体不自由部門」と病気で入院している児童生徒が対象の「病弱部門」を併せ持つ。病弱部門では、大阪市立総合医療センターと大阪市立大学医学部附属病院のなかに分教室があり、他の市内の病院に対しては、個別に訪問教育を実施している。

治療の場、生活の場、育ちの場を多職種で支える

大阪市立総合医療センター

安心できる場を提供したい

大阪市立総合医療センターは、小児がんなどで闘病中の子どもたちが、病院を「安心できる場所」と感じられるように、治療と並行して、学び、遊び、つながりなど、さまざまな面から安心感をもたらす環境を整えています。

朝起きて、ご飯を食べる、トイレに行く、身なりを整える、院内学級へ登校するなど、規則正しい生活のリズムが刻まれるようにすることで、子どもは家を離れて入院しても、生活の場で必要なことを学び、成長にもつながります。また、子どもが子どもらしくいるために欠かせない遊びは「年齢や発達段階に応じたプレイルームに、ままごとや絵本コーナー、カードゲーム、製作ができるスペースなどを設けて、コロナが流行する前は、遊びたいときに遊んだり、交流できるようにしていました」とホスピタル・プレイ・スペシャリスト(以下、HPS)の山地理恵さん。

しんどくても「勉強がしたい」気持ちを尊重

治療が始まると、抗がん剤等の副作用で吐き気をもよおす子もいます。そんなときは「昼からでもいいよとか、病室で勉強しようか(ベッドサイド学習)などと提案しています。しんどくても『教室で勉強したい』と望むお子さんには本人の意志を尊重して教室まで車椅子で送ります」と看護師の横濱元子さん。

学級では、同様の悪性疾患と闘っている子どもと仲良くなって、新しいコミュニケーションができることもあります。

「最初は『やだ』と言っているでも『院内学級に行こう』と子ども同士が誘い合うと『抱持ってよ』など助け合って、点滴をしながら登校しています。QOL向上につ

ながりますし、歳の近い子どもとのつながりがあることを伝えると、ご家族も安心されます」

家族との面会、きょうだいのケア

長期にわたる入院で、家族が離れ離れになるという環境の変化は、保護者やきょうだいにも影響が出てきます。入院した子どものきょうだいは、あらゆる場面で我慢を強いられ、不安や不満を感じやすく、保護者がさらに追い詰められることもあります。

「親御さんの中には、子どもが病気になったのは自分のせいだと思われる方もいらっしゃると思いますので、お話をお聴きしたうえで誰のせいでもないことをしっかりと伝えていきます。当院には、きょうだいと過ごせるスペースが設置されているので、お母さんが安心してお子さんの面会にいけます」と横濱さん。家族への支援を含めて環境を整えています。

無力感をなくし、主体性を取り戻す

入院治療中は、自分で何かを選択し、決定することが難しいことも多い環境であるために、子どもたちに、無力感が生じることがあります。そこで、HPSは、子どもが治療の恐怖心を乗り越えられるように、放射線治療であれば、機器の模型を見て実際に体験することをイメージしたり、手術を受ける子どもに対しては、あらかじめ現場を見学し、麻酔がかかるまでの過ごし方など対処方法を考えたり、痛みを伴う処置の場合は、事前に人形でリハーサルをして心の準備ができるようにしたり、絵本やおもちゃなどに集中することで、痛みや怖さなど処置のストレスを緩和できるよう



▲小児病棟看護師長 横濱元子さん(左)、小児血液腫瘍科医長 仁谷千賀さん(中央)、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト 山地理恵さん(右)

に工夫をしています。

「子どもさんは、検査や手術をやらなないといけないことは理解していません。やらされているというのではなく、子ども自身がやってみようかなと思える環境をつくって、子どもさんが本来もつ力を発揮できるようにしています」と山地理恵さん。

同病院では、子どもの権利をテーマに、入院中の子どもが主体的に学んだり、遊んだり、治療に臨んだりできるように、小児医療センターの看護師を中心に、定期的に勉強会を開いているそうです。

多職種で子どもをサポート

入院から退院、復学、その後に至るまでには、本人の病状や家族からの相談、スタッフの悩みなど、さまざまな課題が生じてきます。医師、看護師、ソーシャルワーカー、保育士やHPS、学校の先生など、横断的に情報を共有し、子どものこれからの利益を最優先に考える方向性を確認しながら、その時起こっている課題を話し合っています。多職種で構成する子どもサポートチームがあり、必要に応じて他の部署や民間団体と協働しています。治療の場であり、生活の場であり、育ちの場でもある病棟では、多職種の連携があつてこそ、子どもの安心感を創り出せるのではないのでしょうか。

人生の一貫性を妨げないように

大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科医長 仁谷 千賀さん

治ること、退院することをイメージしてもらう

小児がんは、突然、血液・悪性疾患が発覚することが多く、告知されたときは、まさに青天の霹靂です。悪性疾患に関しては、命を脅かされ、先がみえないため、本人もご家族も不安と落胆から、入院生活をスタートさせる場合が少なくありません。

小児がんは、7割以上が治る病気です。本人やご家族に、まず治るための治療を提示し、希望を持っていただきます。その後、本人やご家族の様子を見ながら、病棟のスタッフ、看護師、保育士らが病気との闘い方、学びや遊びなどについて話をしていきます。疾患に対して想定される治療方法や、退院して元の学校に戻る見通しなどについて、極力イメージがわくように伝えています。目標や見通しが見えてくると、ショックで動揺していた本人やご家族も、現実に向き合い、前向きにがんばろうという気持ちに変わっていきます。

「イヤなことはイヤ」と安心していえる場所

入院治療を余儀なくされた子どもたちにとって、病院での生活は、なじみのない施設や医療スタッフ、苦痛を伴う医療的処置、治療から生じる外見上の変化など、不安になることだらけでしょう。そんなときに伝えたいのが「みんなあなたの味方だよ」というスタンスです。特に、医師や看護師は、楽しいことを提供する保育士やHPSと異なり、治療や検査、注射、薬など、痛かったり、まずかったり、つらかったりする経験を与えるため、最初は敵だと思われることが多いです。しかし、「あなたを元気にしたいから、一緒にがんばりたいんだよ」と根気強く伝え続けることで、少しずつわかってもらえます。治療をさせられているのではなく、もちろん、我慢をしなれば

ならないこともあるかもしれないけれど、病院の仲間とともに病気をやっつけるという気持ちを持ってもらうことで、『イヤなことはイヤと言える場所』『病気になっても楽しく生きていい』と子どもたちは、病棟での生活を主体的に捉えるようになります。

「子どものために何が一番いいのか?」

小児がんの子どもたちの治療には、医師、看護師、HPSはじめ、さまざまな専門職やスタッフが関わります。役割はそれぞれ異なりますが、みな、思いはひとつ。「子どものために何が一番いいのか」をそれぞれの立場で考えながら、それぞれのやるべきことに取り組んでいます。大人と違うのは、病気を克服した後の人生が長いということです。

入院時より、その先を見据えて、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどの福祉専門職、学校の先生などが集まり、病棟内でのカンファレンスを行っています。何がその子にとって大事で、何が足りないのかをピックアップし、必要なことを病棟内、外部の民間団体も含め投げかけて、それぞれで動いてもらいます。入院時と退院時は、医師、看護師、院内学級と原籍校の先生が集まり、情報を共有しながら、スムーズに原籍校に戻れるようにしています。

ある意味、子どもたちの人生の一貫性を妨げないようにすることが非常に重要です。入院して人生が途切れてしまうのではなく、生きていく中で必要な時間で、その時間にどれだけよいものを提供できるかをみなで考えることが大切だと感じています。子どもたちにとって「入院したけれど、楽しいこともあったよ」と思えるようになってほしいですね。

医療と教育の連携を進めたい

小学校、中学校に対しては院内学級、

高校生に関しては、大阪府立高等学校の生徒のうち、病気・ケガによる入院により長期間登校できない生徒に教育の場を提供する事業が進められていて、当院でも、週に何回か来てもらっています。私立の場合は、病院、家族、学校とどのような形で教育を支援するのがいいのか相談しています。学校としては前例がないため、最初はハードルが高いようですが、いったん受け入れていただくと協力的で、コロナ禍では、web授業など学びの場を提供していただけました。当院としては、より多くの学びたいと思っている子どもたちに教育の場を提供したいので、これからも協力をお願いしたいと考えています。

子どもたちのがんばりを認めてほしい

病気によって、子どもたちは、いままでできていたことができなくなる怖さ、治療がもたらす痛みや苦しみを感じ、これまでの仲間や保護者と関わる自由や時間が奪われます。さらに、コロナ禍では、親やきょうだいとの面会時間も制限され、院内学級も、プレイルームにも行けません。そうした寂しさや不安を抱えながらも、子どもたちはがんばって治療をし、退院後は学校に戻り、勉強を続けています。そんな子どもたちのために、皆さんにお願いしたいのは、ひとこと「がんばってきたね」と声をかけてほしいことです。口に出さなくても、そういう気持ちで受け入れてもらえることによって、子どもたちにとって入院は、成功体験のひとつになるのではないのでしょうか。

DATA

大阪市立総合医療センター

全国15カ所の小児がん拠点病院のひとつ。大阪市内に発生する小児がん患者のほとんどを診療している。全入院患者の3分の1は脳腫瘍の子どもたち。年齢に応じた病棟を備え、乳児から思春期・若年成人(AYA世代)にも対応している。小児がんは再発も含めて年間100人前後を受けて入れている。

大阪市のモデル事業 ● 「介護の職場 担い手創出事業」

新たな人材「アシスタントワーカー」

アシスタントワーカーとは、介護施設で部屋の掃除、食事の片付け等、
直接介助に携わらない業務を担う“介護職場の新たな人材”です。

令和3年10月から今年度のモデル事業所においてもアシスタントワーカーの受け入れが始まっています。最初に受け入れが始まった特別養護老人ホーム加賀屋の森で勤務されているTさんにお話をお伺いしました。

特別養護老人ホーム加賀屋の森 アシスタントワーカーTさん

仕事を探していたところ、町会の掲示板でアシスタントワーカー募集のポスターを見ました。加賀屋の森で知り合いが働いていたので、施設のようすや仕事の内容などの話を聞き、ぜひやってみたいと思い応募しました。

加賀屋の森のアシスタントワーカーに応募した動機は、家から近く自転車で通勤できることや介護施設での仕事には興味があったけれど、介護はやったことがなく無資格のため、まず補助的なものから始めたいと思ったからです。

仕事は、これまでの経験を活かした調理や食事の配膳・下膳、洗い物、洗濯から始めました。リーダー職員から手順

の説明があり、また、わからないことがあれば、スタッフに聞けば親切に教えてもらえるので、すぐに覚えることができました。仕事をしていく中で、利用者さんとお話をする機会が増え、コンパニオンアニマル犬のいおりちゃんとのふれあいもあり、だんだん仕事が楽しくなってきました。

私が介護施設に入職できたのは、無資格でも働くことができる、補助的な業務を行うアシスタントワーカーの募集があったからだと思っています。日を追うごとに仕事の楽しみを見出すことができ、介護への関心も高まってきました。今は、12月から始まった介護職員初任者研修を受講し、介護職員を目指しています。



特別養護老人ホーム加賀屋の森 介護主任

介護施設へは、無資格や未経験の方は、興味があってもなかなか応募しにくいと聞きます。今回、介護職ではない周辺業務を担うアシスタントワーカーを募集したことで、介護施設への入り口の幅が広がったと思っています。

現在、アシスタントワーカー受け入れ施設の内、7施設が募集を行っています。受け入れにあたって施設は、誰が見てもわかりやすいマニュアルを活用するなど、アシスタントワーカーが、介護施設の中で、周辺業務を通して利用者の生活の質を上げる(保つ)業務を担うチームケアの一員となっていくことを期待しています。

社会福祉法人 基弘会 特別養護老人ホーム 夢の箱勝山 〒544-0021 大阪市生野区勝山南1-17-43 ☎06-6712-2220 FAX06-6712-2224 募集中	社会福祉法人 ジーケー社会貢献会 特別養護老人ホーム グルメ軒屋社会貢献の家 〒559-0002 大阪市住之江区浜口東2-5-14 ☎06-6671-2500 FAX06-6671-2611 募集中
社会福祉法人 三秀會 特別養護老人ホーム 麓 〒544-0015 大阪市生野区巽南3-7-30 ☎06-6752-1339 FAX06-6756-8839 募集中	社会福祉法人 健成会 特別養護老人ホーム 加賀屋の森 〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋5-4-23 ☎06-6686-5301 FAX06-6686-5302
社会福祉法人 浪速松楓会 特別養護老人ホーム 寿幸苑 〒544-0023 大阪市生野区林寺4-13-14 ☎06-6714-2221 FAX06-6714-2233 募集中	アミコ株式会社 グループホーム アミコ愛・あい・東加賀屋 〒559-0012 大阪市住之江区東加賀屋1-11-15 ☎06-6690-0112 FAX06-6681-4700 募集中
社会福祉法人 四恩学園 ふれ愛の館しおん 地域密着型特別養護老人ホーム 〒558-0011 大阪市住吉区荻田4-3-9 ☎06-6606-8400 FAX06-6607-2511 募集中	社会福祉法人 央福社会 特別養護老人ホーム ウェルネスあびこ 〒558-0015 大阪市住吉区我孫子西1-2-15 ☎06-6608-3000 FAX06-6608-3333
社会福祉法人 ライフサポート協会 特別養護老人ホーム なごみ 〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東5-10-15 ☎06-6676-0753 FAX06-6676-4006 募集中	※直接施設へお問い合わせください。

第6回 慢性腎臓病(CKD)セミナー WEB開催

内容 / 「腎臓は肝腎要～知って防ごうCKD～」 腎臓高血圧内科 濱田 真宏
「なぜ“塩”は腎臓に悪いのか」 腎臓高血圧内科 山崎 大輔
「腎臓を守るお食事～減塩～」 栄養士 對馬 和

視聴日時 / 2月17日(木) 12:00～3月3日(木) 12:00まで

視聴方法 / 右記URLを入力してご視聴ください。 <http://onl.tw/qDdEWP8>

問合せ / 大阪市立総合医療センター 地域医療連携センター

☎06-6929-1221 ☎06-6929-0886

※問合せ可能日、可能時間(平日 8:45～17:15)

🌐<http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/about/shiminkouza.html>



令和3年度 ひきこもり支援者研修 参加無料

テーマ / 「みんなで考えるひきこもり支援 ～事例を通して話し合おう～」

ひきこもり支援の事例を通じたグループワークを中心とした参加型の研修です。
グループワークを通じて、支援者同士のつながりを作り、ともに学ぶことで、支援者の皆さんに少しでも元気になっていただきたいと思います。

日時 / 2月8日(火) 14:00～17:00

場所 / 大阪市こころの健康センター 大会議室
(大阪市都島区中野町5-15-21 都島センタービル3F)

講師 / 大阪人間科学大学心理学部心理学科 講師 岩田 光宏 先生

対象者 / 大阪市民のひきこもり支援に携わっている保健・福祉・医療等の支援者

定員 / 35名 **締切** / 2月4日(金)

申込 / 参加される方の①氏名(ふりがな)、②所属・勤務先、③職種、④電話番号を下記のお申込み先までお伝えください。

申込先 / 大阪市こころの健康センター ☎06-6922-8520 ☎06-6922-8526 (平日 9:00～17:30)



～大阪府・大阪市・堺市 三社協合同事業～

令和3年度 市民後見人・成年後見制度啓発シンポジウム

「大阪モデル」の市民後見人養成・活動支援から 今後の成年後見制度を考える

日時 / 2月26日(土) 13:30～16:30

場所 / オンライン Zoom(最大500名)

※オンライン視聴が困難な方は、お問合せください。

内容 / 第1部【対談】「大阪モデル」の市民後見人活動と今後への期待(50分)

第2部【パネルディスカッション】市民後見人「大阪モデル」取組の実際(115分)

参加費 / 無 料

申込 / 大阪府社会福祉協議会ホームページからお申込みください。

🌐<http://www.osakafusyakyu.or.jp/koukenshien/>

(先着順)申し込みされた方には、前日までに参加に必要なURLをご案内します。

締切 / 2月18日(金)

問合せ / 大阪府社会福祉協議会 大阪市成年後見支援センター ☎06-4392-8282 ☎06-4392-8900



講座案内

研修につきましては、
次の措置を講じたうえで
実施する予定です。

- 研修中は常に換気を行うこと
 - 参加者間の距離を1メートル以上確保し、お互いの接触は避けること
 - 演者等と聴衆との距離を1メートル以上離し、お互いの接触は行わないこと
 - マスク着用の徹底及び消毒液を常備し、手に触れる箇所の消毒に努めること
 - 後日、状態を確認できるようにするため、参加者の氏名、連絡先を取得すること
 - 受講者全員に、「大阪コロナ追跡システム」への登録要請を徹底すること
- ただし、今後の臨時休館の取扱状況によっては、中止又は延期する場合があります。
ご理解いただきますようお願いいたします。

● 市民向け講座

市内在住、在勤、在学の方

講座名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
【社会福祉史の市民講座】 市民館設立100周年記念講演会	3月12日(土) 14:00~16:00	大阪市内在住・在学・在勤であればどなたでも参加可能	松蔭東女子短期大学 名誉教授 森田 康夫	北市民館設立100年を迎えて ロバート・オーエンのロッヂデール綱領と志賀志那人の協同組合主義活動について学ぶ。	定員50人(先着順) 締切:2月28日(月) 午後5時必着 受講料:無料

● 福祉従事者向け研修

申込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
【障がい福祉関係研修】 発達障がいの理解と対応 (オンラインライブ研修)	3月2日(水) 14:00~16:00	大阪市内の社会福祉関係施設・事業所に勤務する方	武庫川女子大学 発達臨床心理学研究所 嘱託研究員 石川 道子	子どもの発達障がいを中心に、発達障がいの特性を理解し、その特性に応じた対応について具体的に学ぶことで、適切な支援につなげる方法を身につける。	定員:30人 締切:2月2日(水) 午後5時必着 受講料:1,500円 ※職場・自宅でパソコン、タブレット等を使用してご受講いただく、オンラインライブの研修です
障がい者虐待防止について考える ~利用者主体の支援とは~	3月1日(火) 14:30~16:30	大阪市内の社会福祉関係施設・事業所に勤務する方	関西福祉科学大学 社会福祉学部 教授 津田 耕一	虐待を防ぐために、利用者主体の支援のあり方について今一度考えていながら、職場として、また、自分自身として取り組める方策について検討する。	定員:36人 締切:2月4日(金) 午後5時必着 受講料:無料
【よしいと座談会(管理職・リーダー)】 福祉人材確保について考える	3月1日(火) 17:30~19:30	大阪市内の福祉施設・事業所に勤務する管理職、チームリーダー及び近い将来それらの役割を担うことが想定される職員	関西福祉科学大学 社会福祉学部 教授 津田 耕一	福祉職場において、人材の確保・育成・定着への取り組みが重要課題となっており、「人材マネジメント」は、管理職・チームリーダーの大切な役割である。今回は「人材の確保」をテーマに、学生を送り出す側である教員としての思いや体験談を交えながら、福祉施設・事業所の職員と一緒に考える。また、横の「つながりの場」として、交流会・情報交換会を行う。	定員:30人(先着順) 締切:2月18日(金) 午後5時必着 受講料:無料 ※名刺を持参してください
【福祉人材確保支援研修】 「やさしい日本語」セミナー	2月18日(金) 14:00~16:00	外国人を雇用している、または雇用に興味のある大阪市内の福祉関係施設・事業所職員	「やさしい日本語」有志の会 代表 花岡 正義	「やさしい日本語」は外国人にわかりやすく、また高齢者、障がいのある方をはじめ誰にでもわかりやすいユニバーサルデザインとして行政や医療、福祉などの分野でも活用されている。福祉・介護現場で活用するためのセミナー。	定員:20人 締切:2月10日(木) 午後5時必着 受講料:無料

※日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

● 福祉従事者向け研修の申込み方法 ▶ 当センターのホームページから申込みか、申込用紙をダウンロードしてFAXでお申込みください

申込・問合せ先

大阪市社会福祉研修・情報センター 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

☎06-4392-8201

FAX06-4392-8272

🌐<https://www.wel-osaka.com>

✉kensyu@shakyo-osaka.jp

図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報

図書紹介

「記載例で学ぶ居宅介護支援経過 書くべきこと・書いてはいけないこと 令和3年改定対応」

後藤 佳苗 著 第一法規 2021年
ケアマネジャーが作成すべき書類のうち、記述の観点が曖昧な「居宅介護支援経過(第5表)」について、相談支援業務(ケアマネジメント)と法的根拠(コンプライアンス)の両面から記載すべき事項を分かりやすく解説。令和3年度介護報酬改定に即した最新版!



「認知症で使えるサービス しくみお金のことがわかる本 改訂版」

田中 元 著 自由国民社 2021年
認知症の相談、診断、診療、医療サービス、介護保険サービス、見守り、家族支援、費用とお金、成年後見といった権利擁護のしくみまで、認知症の周辺すべての知識をまとめた決定版!



「脳トレで機能向上ホワイトボードレク スキマ時間に!少人数でもできる!」

森木 勇一郎 監修 世界文化ライフケア 2021年
ちょっとしたスキマ時間にいつでも誰でもすぐできる、介護施設でのホワイトボードレク集。歌ったり体を動かしたりしながら脳を活性化させる。言葉かけ例が豊富で実践しやすい。準備がいらぬ、少人数でもできる、介護現場で待望の一冊。



「大人のいじめ」

坂倉 昇平 著 講談社 2021年
職場のいじめで精神障がいが発症した件数が、この11年で10倍に! 職場いじめは、なぜ蔓延するのか。膨大な数の「いじめ・嫌がらせ」相談を受けてきた著者が、実例を紹介しながらその背景を分析する。



DVD紹介

「精神障がいピアサポート リカバリー志向の地域精神保健福祉を育てるために」

中島映像教材出版 76分 2017年
ピアとは、仲間とか対等という意味。ピアサポートは「関係」そのものが支援であり、全く新しい支援の観点である。本作には、日本各地における、そんな新しい支援や福祉の始まりが記録されている。ピアサポーターの実際の活動を通じて、新しい地域精神保健福祉の姿を考える。



「みとりし」

ハピネット 110分 2020年
温かい死を迎えるため、旅立つ人の心に寄り添いながら見届ける“看取り士”を描いたヒューマンドラマ。交通事故で娘を亡くし、自殺をを図ろうとしていた柴。岡山で看取り士としてセカンドライフを送る彼の姿を通して、その仕事の全貌や死ぬこと、生きることなどを見つめ直す。



「イーちゃんの白い杖」

テレビ静岡 108分 2020年
全盲の姉と重度障がいの弟。互いの顔を見ることがない姉と弟。ともに歩んだ20年。生きることに疲れた時…いつもそばには弟がいた。本当の幸せとは何なのか。私たちはなぜ、生まれてきたのか。この姉弟が、この家族が出した答えとは。2019年度「児童福祉文化賞」受賞作。



「スペシャルズ!政府が潰そうとした自閉症ケア施設を守った男たちの実話」

ギャガ 114分 2021年
パリで自閉症児をケアする施設を経営するブリュノと、ドロップアウトした若者たちを支える団体を運営するマリク。コワモテのふたりだが、社会からはじかれた子供たちをまとめて救おうと、日々奔走する。共に生きることの大切さを、笑顔と優しさで気づかせてくれる実話に基づく感動作!!



大阪市社会福祉研修・情報センター2階にある「図書・資料閲覧室」では、社会福祉に関する書籍などを無料で貸し出しています(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉関係雑誌などが充実しています。)



- 図書・約18,000冊 ● DVD・約940本 ● 雑誌・約27種類
- 開室時間 / 月曜日～土曜日(祝日、年末年始は除く)午前9時30分～午後5時
- 貸出期間 / 2週間(図書・雑誌等は5冊、DVD・ビデオは5本まで)
- 利用資格 / 貸出し期間(2週間)内に、来館しての返却が可能な方
- ※ 郵送での返却はできません
- ※ 初回の登録時には、住所・名前などの証明ができる本人確認書類(免許証・保険証など)をご持参ください
- 問合せ先 / ☎ 06-4392-8233 お電話で図書・DVDの予約も承ります



大阪市で実施する「こころの健康」に関する相談事業のご案内
 大阪市在住の方を対象に、次の相談事業を実施しています。ひとりで悩まず、ご相談ください。

大阪市こころの健康センター

♡こころの悩み電話相談 専用電話 ▶ 番06-6923-0936

専門の相談員が、気分の落ち込みや不安など、こころの健康に関する相談をお受けします。
 *月～金曜日の9時30分～17時(祝日・年末年始を除く)

♡こころの健康相談統一ダイヤル 専用電話 ▶ 番0570-064-556

「つらい…」[「どうしたらいいのかわからない…」]そんな気持ちのときには、ぜひご相談ください。
 *月～金曜日の10時～17時(祝日・年末年始を除く)

♡新型コロナウイルス感染症に関する電話相談

新型コロナウイルス感染症に関して、こころの不安やストレス等を感じている場合にご相談ください。

こころの悩み電話相談 専用電話 ▶ 番06-6922-3474

*月～金曜日の9時30分～17時(祝日・年末年始を除く)

新型コロナこころのフリーダイヤル 専用電話 ▶ 番0120-017-556

*毎日9時30分～17時(土・日曜日、祝日・年末年始も実施)

♡自死遺族相談 予約電話 ▶ 番06-6922-8520

大切な人を自死で亡くされた方を対象に、臨床心理士が面接(予約制)によりお話をお伺いします。
 *月～金曜日の9時～17時30分(祝日・年末年始を除く)

♡ひきこもり相談 専用電話 ▶ 番06-6923-0090

「ひきこもり」に関することで悩んでおられるご本人やご家族などからのご相談をお受けします。
 精神科医による専門相談は予約制です。(電話相談後、必要に応じて面接等を行います)
 *月～金曜日の10時～17時(祝日・年末年始を除く)

♡思春期問題相談

不登校、人目を気にして外出を嫌がるなど、思春期特有の問題について悩んでおられるご本人やご家族などからのご相談をお受けします。精神科医による専門相談は予約制です。
 お住まいの区保健福祉センター(下記参照)にて、相談や専門相談の予約を受け付けています。

♡依存症相談 専用電話 ▶ 番06-6922-3475

アルコール・薬物・ギャンブル等の問題について悩んでおられるご本人やご家族などからのご相談をお受けします。精神科医による専門相談は予約制です。(電話相談後、必要に応じて面接等を行います)
 *月～金曜日の9時～17時30分(祝日・年末年始を除く)
 各区保健福祉センターでも相談をお受けしています。

〈各区保健福祉健康センター〉 ■精神保健福祉相談

精神保健福祉相談員や保健師が、こころの健康に関する相談をお受けします。

必要に応じて精神科医師による相談(予約制)もお受けします。

問合せ ▶ 各区番号4ケタ ●●●●-9968(●●●●の部分にお住まいの区の4ケタ番号を入れておかけください。)

受付時間 ▶ 月～金曜日の9時～17時30分(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

北 区	6313	都 島 区	6882	福 島 区	6464	此 花 区	6466
中 央 区	6267	西 区	6532	港 区	6576	大 正 区	4394
天王寺区	6774	浪 速 区	6647	西淀川区	6478	淀 川 区	6308
東淀川区	4809	東 成 区	6977	生 野 区	6715	旭 区	6957
城 東 区	6930	鶴 見 区	6915	阿倍野区	6622	住之江区	6682
住 吉 区	6694	東住吉区	4399	平 野 区	4302	西 成 区	6659

(問合せ) 大阪市こころの健康センター

大阪市都島区中野町5-15-21 都島センタービル3階 番06-6922-8520

今月の自助具

ペットボトルスタンド(車椅子用)

主な適応疾患・対象者 ▶

- 車椅子利用者でペットボトルがうまく持ち上げられない人

機能・特徴 ▶

- 車いすのひじ掛けに、ペットボトルを安定に配置することができる
- 保持する容器の大きさに合わせてサイズを変えることができる

使い方 ▶

- ペットボトルスタンドを車いすのひじ掛けに乗せ、面ファスナー付き布ベルトで固定する
- 使用する容器に合わせてホルダーの幅を調節し、蝶ネジで固定する



資料提供・問合せ ▶ 特定非営利活動法人 自助具の部屋

番 06-4981-8492 (月・水・金 10:00～15:00)

NPO自助具の部屋ホームページ ▶



健康生活
 応援グッズ

手すり

動作が安定
 面に手をつくことで



●折りたたみ可能な手すり スタンディ

面で支えるので安心して使用でき、スリット付きでしっかり握れます。使用シーンに合わせて、手すりの位置を変更すること可能。レバーを握ることで平面部を簡単に折りたたむことができます。

使いたい場所に置くだけで「たててすり」



●たちあっぷⅡ たててすり

天井と床を突っ張る必要がなく、使いたい場所に置くだけでタテ型の手すりが設置できます。L型手すりも備え、立位保持、移乗の際に利用者がつかみやすい構造で安心です。

工事不要! 置くだけですり



●マルチフィットすり

ベースプレート、手すりの形状、手すりの材質、高さの組み合わせで、身体状況や住環境に合わせてマルチフィット。置くだけなので簡単に設置できます。

問合せ

公益社団法人

関西シルバーサービス協会 事務局

〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

番 06-6762-7895 番 06-6762-7894

http://kansil.jp

福祉を学ぶ学生のための施設職員とのWEB懇談会

～学生に、福祉の魅力を伝えたい～

大阪市社会事業施設協議会（経営委員会）、大阪市福祉人材養成連絡協議会、市社協は、三者共催事業として「福祉を学ぶ学生のための施設職員とのWEB懇談会」を、11月20日（土）に開催しました。

この企画は、社会福祉施設で人材確保と定着が課題となっていることを背景として、令和元年度から実施。コロナ禍の現在、福祉を学ぶ学生は従来通りの体験学習や施設見学などが難しく、福祉の仕事のイメージを膨らませるための出会いの機会が限られています。こうした現状をふまえ、3回目となる今回は、さまざまな種別の施設職員の話を、オンラインで全体進行しながら幅広く聞く形式としました。

懇談会には、大学生・短期大学生24人、教員2人の計26人が参加。双方向のやりとりが生まれるよう、Zoomの投票機能を

使ったアイスブレイクを取り入れるなど工夫を凝らしました。

終了後のアンケートでは、企画のよかった点（複数選択）として「職員の話から魅力や雰囲気、実情が伝わった」（79%）がもっとも高く、「イメージしていなかった分野も含めて話を聞いた」（63%）が続きました。自由記述では「福祉の仕事に就きたいと考えていたが、具体的な職種は決まっていなかったため、とても参考になった。コロナ禍で制限されることが増えた中、どの施設でも利用者の方が楽しく生活できるように工夫されていることが印象的だった」などの声がありました。

懇談会を視聴した施設関係者も「福祉の仕事を目指す学生の熱意が感じられて嬉しかった」「学生さんは将来をイメージするためにも、若手職員の声を聴きたいのだなと思った」と手応えを感じる意見を寄せました。



▲トークセッションの様子。会場後方では主催団体の関係者が視聴



▲参加した職員から「他分野の話聞いて、自身の学びの機会にもなった」との声も

カタチにするプロ

パンフレットやカタログなど、作りたいものがカタチにならず困っていませんか？

当社なら企画から取材・撮影・デザイン・印刷・納品にいたるまで、各専門スタッフが、お客様のイメージをトータルでカタチにします。

※詳しくは下記までご連絡ください。

TOTAL CREATION
AD.EMON
株式会社 アド・エモン

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-23 丸丹ビル306号
TEL: (06) 6358-1010 FAX: (06) 6358-1011 E-mail: info@ad-emon.com
<http://www.ad-emon.com>

〔広告〕

大阪市社会福祉研修・情報センター

福祉職員のメンタルヘルス相談

ひとりで悩まずに
まずはお電話を



相談・予約電話

ハローサンキュー

06-4392-8639

✉ k-kanri@shakyo-osaka.jp

予約方法 上記番号へお電話ください。

平日 9時30分～21時 土・日 9時30分～17時

お気軽にご相談ください。秘密厳守

疲れやすい、やる気が出ない、眠れない、対人関係がうまくいかない…など、仕事上のストレスなどから生じる**悩み**の相談窓口です。ご本人だけでなく、同じ職場の上司や同僚の方から相談いただくこともできます。

●対象

大阪市内在住又は市内にお勤めしている福祉職員

●相談方法／電話または来所(まずは、ご予約ください)

●相談日時／毎週土曜日と第1・3水曜日

土曜日の場合は、祝日も実施(年末年始は休み)いずれも午前9時30分～午後4時

●相談員／臨床心理士 ●相談料／相談無料

来所による相談に加え、大阪市内の社会福祉施設への福祉職員対象のメンタルヘルスに関する出張研修を始めました。(追加で個別相談も可能)

センターにご相談ください。☎06-4392-8201

CENTER INFORMATION

大阪市社会福祉研修・ 情報センターのご案内

開館時間 / 午前9時から午後9時まで(土・日曜日は午前9時から午後5時まで)

図書・資料閲覧室は午前9時30分から午後5時まで(月～土曜日)

休館日 / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	午前9時～午後9時(土・日曜日は午後5時まで) (会議室の申込・お支払いは午前9時30分～午後5時)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	午前9時～午後5時
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	午前9時～午後5時

貸室ご利用の皆様へ

1 貸室予約がオンラインで24時間パソコンやスマートフォンから可能となりました。

ホームページの【貸室のご案内】よりログインし、ご予約ください。

初めてご利用される方は、事前にお問合せください。 [ウェルおおさか](#) [Q 検索](#)

2 利用申込の受付は6か月前からです。

利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、インターネットでの予約、または電話や窓口でご確認のうえ所定の用紙でお申込みください。

電話や窓口での受付は、午前9時30分から午後5時まで。

☎06-4392-8200 FAX06-4392-8206

※インターネットでの予約可能な期間は、利用日の6か月前から利用日の1週間前までです。

FAXでの申込み可能な期間は、利用日の6か月前の午前9時30分から利用日の3日前までです。

※当分の間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用条件を変更しています。

詳しくは、ホームページの【貸室のご案内】をご覧ください。



■会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。ご予約は利用日の6か月前からです。

(単位:円)

室区分	利用人員のめやす	時間区分	午前	午後	夜間	全日
			9:30～12:30	13:00～17:00	18:00～21:00	9:30～21:00
4階	会議室	48	3,800	5,100	3,800	11,400
	会議室 東	16	1,900	2,600	1,900	5,800
	会議室 西	24	2,900	3,800	2,900	8,600
	介護実習室	16	5,700	7,600	5,700	17,100
	演習室	8	1,000	1,300	1,000	3,000
5階	大会議室	72	5,800	7,700	5,800	17,400

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために利用人員のめやすに制限をかけています。ご了承ください。

交通 / ご来所には **【大阪シティバス】** **【JR】** **【地下鉄】** をご利用ください

大阪シティバス

「長橋二丁目」バス停すぐ
52系統(なんば～あべの橋)

JR大阪環状線・大和路線

「今宮」駅から徒歩約10分

地下鉄・四つ橋線・御堂筋線

「花園町」駅(①・②出口)から徒歩約15分

「大國町」駅(⑤出口)から徒歩約15分

所在地 / 〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号

設置主体 / 大阪市

運営主体 / (指定管理者)
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

電話 / ☎06-4392-8200(代表)

ファックス / FAX06-4392-8206

URL / <https://www.wel-osaka.com>

Facebookもチェック



「ウェルおおさか」に広告を掲載しませんか

詳しくはお問合せください…▶ **大阪市社会福祉研修・情報センター**
☎06-4392-8201 FAX06-4392-8272 ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

人権啓発キャッチコピー

【テーマ】こどもをめぐる人権

忘れてませんか 子どもの視線に 立つ気持ち

山野 大輔さん(令和2年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー 一般の部 佳作)